

東京工業大学 渡辺 貴介
永井 護
神奈川県庁 川口 恒美

1 目的

近年、地域計画の領域において、住民意識を計画の中にとり入れる方法について、各方面で、色々な試みがなされている。それらを計画プロセスの中で分けてみると、大きく二つに分けることができる。その一つは、プランのオルタナティブを評価する際に、住民の意識なり、意見なりを組み込む事であり、他方は、プラン作成の段階において、住民の意識を組み込む事である。ここでは、後者の考え方に立ち、以下の研究を行った。まず、プラン作成の段階においては、プランナーが、その地域の住民の意識構造をマクロにするパターンとして捉え、その特色及び傾向を、早期に把握する事が重要である。そこで、この論文では、住民の意識構造をネットワークとして捉える事を試みた。次に、そのネットワークより、その地域における政策の有効度の算定を行った。

2 方法

図-1に作業フローを示す。予備調査は、地域の概要を把握すると共に、本調査の質問項目を設定する為に行った。その結果を、対象地区の計画者の要請に基づいて、本調査の、質問項目を設定した。(質問項目は後述する。)図-2に、調査設計を示す。

a. 関連係数 図-3に示す、四分表が与えられた時、ユールの関連係数は、

$$Q = \frac{(AB)(\alpha\beta) - (AB)(\alpha\beta)}{(AB)(\alpha\beta) + (AB)(\alpha\beta)}$$

で表わされる。これを用いて、各質問間の関連度とする。

b. グラフ化 質問の内容は、現在の状態について、現在の評価について、政策の評価について、の三種類から成り立っている。これらの質問を、各ノードとして、前述の関連係数を用いて、ネットワークを描いた。

c. 因子分析 関連係数を用いて、因子分析を行い、グラフの妥当性のチェックをすると共に、その意味づけをした。

d. 政策有効度 次の式により、政策の有効度を算定した。

$$U_i = \frac{w_j}{L_{ij}} + \frac{w_k}{L_{ik}} + \frac{w_l}{L_{il}} + \dots + w_i$$

ここで U_i ; i 政策の有効度

L_{ij} ; 政策 j を評価の結び付きの強さを表わすもので、i と j 間の最短距離で表わす。

w_j ; 評価の重要度

図-1 作業のフロー

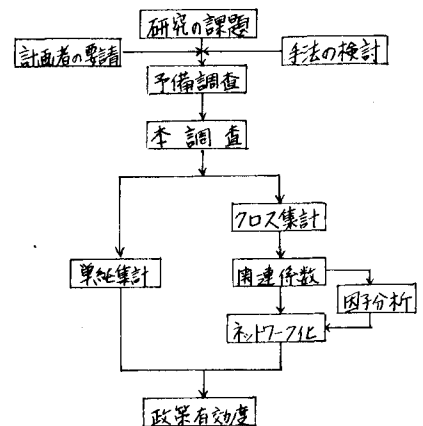


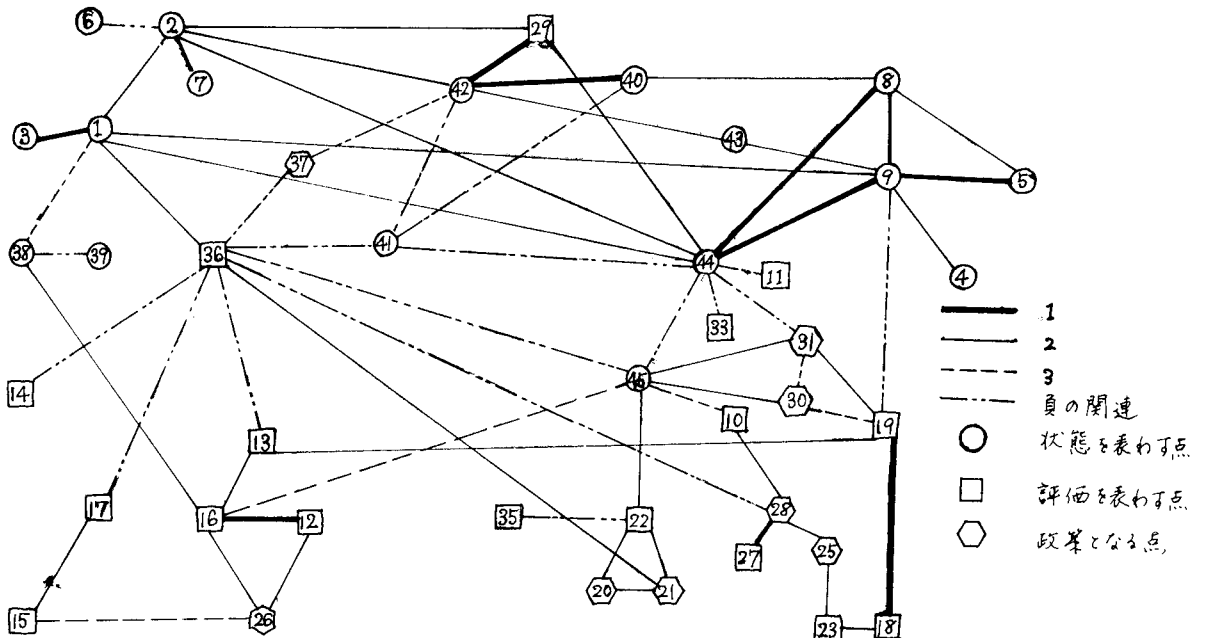
図-2 調査設計

	予備調査	本調査
対象地域	岩手県豊田町	同 左
期 間	S.46.8.2	S.46.11.
調査方法	インタビュー調査	解答用紙による調査 (小学校に配布する)
解答形式	フリーアンサー	Yes, No. の該当するものに○をつける
サンプル数	60人	437世帯

図-3 四分表

		質 問 B		計
		B(Yes)	B(No)	
質 問 A	A (Yes)	(AB)	(Aβ)	(A)
	B (No)	(αB)	(αβ)	(α)
	計	(B)	(β)	(N)

図4 意識構造のネットワーク



- | | | | | |
|---------------|------------------|----------------------|----------------------|---------------------|
| 1. 日常の買物は近所で | 10. 現在住んでいる位置に不満 | 18. 親せきつきあいばかりわすれたい | 26. 道路が悪い | 34. 部落の戸数は今くらい |
| 2. 時々買ものは栗石で | 11. 住宅環境に不満 | 19. 部落つきあいばかりわすれたい | 27. 将来家を建て替いたい | 35. 栗石に住みやすい |
| 3. 病気の時は診療所で | 12. 買い物に不便 | 20. 工場誘致に賛成 | 28. 転居したい | 37. 将来は盛岡へ帰属 |
| 4. 楽しみ事がある | 13. 医療に不便 | 21. 観光開発に賛成 | 29. もし転居するなら栗石内に | 38. 駅まで30分以上かかる |
| 5. 旅行へよく行く | 14. 教育施設に不満 | 22. 他の町の人が栗石に住むことに賛成 | 30. 生産の場と生活の場を切り離したい | 39. 交通機関は自動車 |
| 6. 盛岡へよく行く | 15. 娯楽施設に不満 | 23. 職業に不満 | 31. 都会的な生活 | 40. 栗石で生まれた |
| 7. 栗石へよく行く | 16. 通勤通学交通の便が悪い | 24. 経済的な不安 | 32. | 41. 他の場所に住んでいたことがある |
| 8. 部落の団体に加入 | 17. 公共施設に不満 | 25. 転職したい | 33. 子供には同じ仕事をさせたい | 42. 親せきがある |
| 9. 部落の人と交流がある | | | | 43. 老人がいる |
| | | | | 44. 農業 |
| | | | | 45. 盛岡に通勤 |

3 結 論

a. グラフ及び因子分析についての考察

栗石の住民は、三つのグループに、分ける事ができる。

- ① 栗石満足型 昔から栗石に住み、農業に従事する人々である。部落内での活動（クラブ）に参加し、部落内の人々との交流がある。従って、親類も栗石に多い人々である。
- ② 栗石不満足型 道路、買物、教育施設、娯楽施設などに、不満を感じて居る人々のグループ。
- ③ 栗石拒否型 親類つき合いがわづらわしい。経済的に不安である。都会的な生活がしたいといった考え方で代表される人々の集まり。（詳細は、当日発表する。）

b. 政策有効度について

有効な政策を、順にあげると、次のようになった。

- ① 観光開拓、② 転居、③ 道路改良、④ 転職、⑤ 生産の場と、生活の場を切り離す ⑥ 都会的な生活 ⑦ 盛岡に帰属、⑧ 工場誘致（これらの意味については、当日、発表する。）